



# ひしのみ

山形市立明治小学校  
学校だより  
R3.8.24発行  
第7号  
校長 横山 聡

## 2学期も「学び合い…」



2学期がスタートしました。1学期の終業式は体育館に全員集まって行うことができたが、山形市の新型コロナウイルス感染状況も踏まえテレビ放送での始業式となりました。今後の感染状況を考えるとどうしても気持ちが沈んでしまいがちですが、感染予防をしっかりとしながら、いきいきとした2学期生活を送ってほしいという願いをこめて、生活の中で「感動」を見逃さずに味わっていかうとスライドを使いながら以下のような話をしました。（脳科学者の茂木健一郎氏の本を参考にしました。）

小さなことにも、すぐに感動する人がいます。一方で少々のことでは感動しない人もいます。同じものを見たり、聞いたり、経験したりしていても、人によって感動の量が違うようです。2学期は84日間あります。84日間の中でたくさん感動したいものですね。

では、感動の量が大きい人と小さい人の違いは、性格によるものなのでしょうか。脳科学の視点からいえば、性格によるものではないとのこと。

人間の脳には誰にでも「感動する」という「はたらき」(メカニズム)があり、手入れをすれば、どんどん「はたらき」がよくなるそうです。

では、具体的にどのような手入れをするとよいかというと、①「五感」をしっかりとつかう②「感動したことを誰かと語り合う」ことをしてみましょう。

- ① しっかり見たり、聞いたり、味わったりして、自然や絵、音楽、人の姿や行為の「美しさ」「よさ」を感じよう。
- ② 感動したことを友達や家族に話すと、感動は何倍にもふくらみます。どんな小さなことでもいいから感動を分かち合おう。

明治小の合言葉「学び合い、たすけ合い、鍛え合い」を大切にして、2学期をすごしていきましょう。

教職員も、子ども達が「できた」「楽しい」「がんばってよかった」と感じることでできる授業をつくるとともに、子ども達の「感動」に寄り添うことに努めて参ります。ご家庭でも子ども達の話聞いて「感動」を分かち合っていたいただければと思います。今学期も、ご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

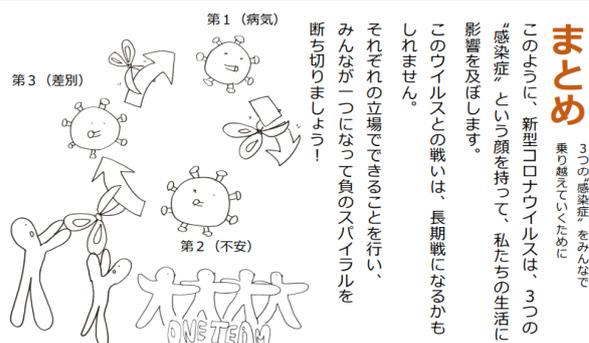
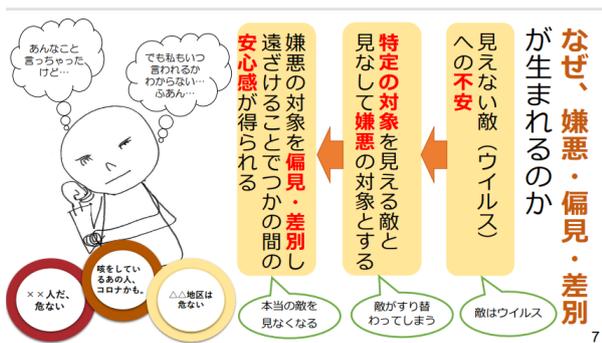


# 「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」

～ 日本赤十字社ホームページ資料より ～

デルタ株により新型コロナウイルス感染が急激に広まっている状況を受けて、本日、全学級で日本赤十字社の「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」という資料を使って感染防止学習を行いました。

新型コロナウイルスには、「3つの“感染症”」という顔があるということで、第1は「病気そのもの」、第2は「不安とおそれ」、第3は「嫌悪・偏見・差別」です。



使われている言葉が難しいものもあるため、各学年で実態に合わせて指導しました。本日一斉メールでこの資料のリンク先を掲載しますので、ぜひご覧いただき、ご家庭でも話題にしていただければ幸いです。

※ 8月18日に一斉メールにて、山形市教育委員会からの文書「新型コロナウイルス感染症の予防について（お願い）」を明治小ホームページの「明治小ニュース」に掲載したことをお知らせしました。同文書を印刷したものを本日配布しましたので、ご確認ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

※ 近日中に山形市教育委員会より、感染防止に係る学校の教育活動のあり方に関する通知が届く予定となっています。今後の教育活動に大きな変更を伴う場合は、至急保護者の皆様にもお知らせいたします。

## 登校時の姿 心あたたまります

朝、学校の正門前の手押し信号での一場面です。横断歩道を班の全員が渡り終わった後で、最後尾にいる副班長が、止まってくれた運転手さんたちへお礼のお辞儀をしています。

多くの運転手さんは、子ども達の姿を見て笑顔になり、会釈を返してくださいます。私は、このやりとりを見ると心があたたかくなります。



また、「あいさつの力」を実感します。そして、あいさつって素敵だなあと思うと同時に、自分もきちんとあいさつやお辞儀をしなければと思います。

子ども達の姿から、あいさつの大切さを学びました。